

# 部活動などの活躍

《1年生バレーボール部+〇〇〇さん(1-2)》

荒川区1年生バレーボール大会  
優勝

《中学生税の作文コンクール》

荒川税務署長賞

〇〇〇〇さん(3-1)

優秀賞

〇〇〇〇くん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-1)

税の標語入選

〇〇〇〇くん(1-2)

作品名「税を知り 未来を担う わたしたち」

《薬物乱用防止ポスター・標語》

薬物乱用防止ポスターコンクール

佳作 〇〇〇〇さん(2-2)

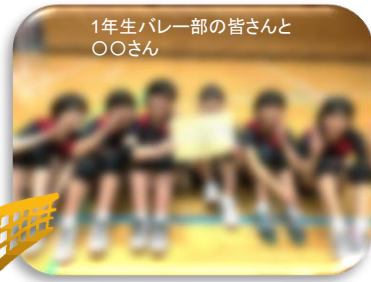
薬物乱用防止標語

佳作 〇〇〇〇さん(2-1)

作品名「未来の自分 守るもこわすも きみ自身」

佳作 〇〇〇〇さん(2-3)

作品名「ちょっと待て その好奇心が 命とり」



1年生バレー部の皆さんと  
〇〇さん



〇〇さんの作品



題字:校長 齊藤 進



学校だより  
令和2年1月  
第102号  
荒川区立南千住第二中学校

## さらなる防災意識の向上と 地域貢献を



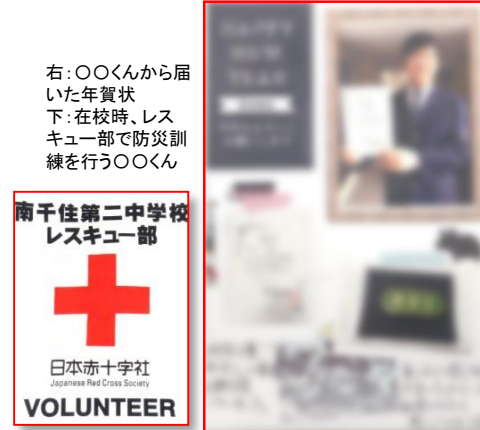
ナンちゃん・ニーくん



校長 齊藤 進

本校卒業生で現在高校2年生の〇〇〇くんから年賀状を頂きました。〇〇くんは在学中レスキュー部の部長を務めレスキュー部活動の充実・発展に大きな力を発揮してくれました。年賀状には昨年防災士の資格を取得したことが書き添えられていました。「昨年の夏、防災士の資格を取得いたしました。南二中で得た知識があったからこそ取得できたと感じております」。(原文)

防災士とは“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。災害の規模が大きければ大きいほど、消防、警察などの公的な救援活動が十分に機能するまでには一定の時間がかかります。そこで発災直後における初期消火、避難誘導、避難所開設などを住民自身の手で行うために、地域や職場の人たちと協力して、災害への備えや防災訓練を進めます。防災士は、そのための声かけ役となり、リーダーシップを発揮します、と日本防災士機構の説明にあります。



右:〇〇くんから届いた年賀状  
下:在校時、レスキュー部で防災訓練を行う〇〇くん



今から25年前、平成7年1月17日に阪神・淡路大震災が発生しました。犠牲者は6,434人に達し、第二次世界大戦後に発生した地震災害としては、東日本大震災に次ぐ被害規模です。この大災害を契機に日本防災士機構が設立されました。防災士の資格を取得した人は2019年12月現在、全国で約18万5千人になります。



私たちが暮らす日本は地震だけではなく台風によっても大きな災害が発生し、その対応が早急に求められています。そのためには阪神・淡路大震災や東日本大震災、昨年の台風15・19号の教訓を忘れることなく私たち一人一人が防災意識をもち、自助・共助の精神を向上させることが求められます。

本年は大きな災害等がないことを祈りつつ、本校レスキュー部員だけではなくすべての生徒が防災意識を高め、地域の方々と連携・協力し防災に強いまちづくりの一員として活躍する南二中学生であってほしいと思います。

令和2年となりました。本年も本校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

### 南千住マイスターのコーナー

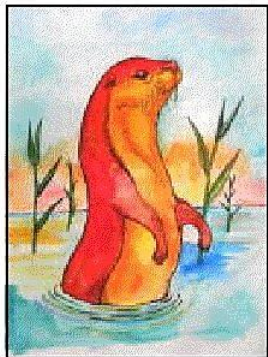
残念なこと日本に生息していたニホンカワウソは、一九七九年夏の目撃例を最後に、二〇一二年に絶滅が宣言されています。胡録神社の例大祭は今でも三年に一度、六月の第一週の日曜日に行われていますが、「かわうそ」が絶滅してしまった今となっては、「かわうそ狩り」はもはや幻の行事となってしまうかもしれません。

残念なこと日本に生息していたニホンカワウソは、一九七九年夏の目撃例を最後に、二〇一二年に絶滅が宣言されています。胡録神社の例大祭は今でも三年に一度、六月の第一週の日曜日に行われていますが、「かわうそ」が絶滅してしまった今となっては、「かわうそ狩り」はもはや幻の行事となってしまうかもしれません。

南千住駅を汐入側に降り、隅田川沿いに進むと「胡録神社」があります。この神社は、川中島の合戦の後、高田氏が移り住んだときにつくられたものといわれています。

この胡録神社の例大祭は「押し合い祭り」といわれ、大変な盛り上がりを見せると言います。このお祭りの時、昼には神楽や村芝居、夜には鯉の寄せ鍋や「かわうそ狩り」が行われたと、明治時代の「都新聞」(明治三二(一八九九年)十月三十日刊)に記されています。

当時、胡録神社は、現在よりも隅田川近くにあり、その境内は鬱蒼(うつそう)とした森に囲まれていました。そんな鎮守の社には狸や川獺(かわうそ)などの野生生物がたくさん棲みついていたことでしょう。当時「かわうそ」は、狸や狐と同じく、人に化けたりだまされたりする動物とされてきました。日本各地には、美女や子どもに化けたり、中には生首に化けた「かわうそ」の言い伝えが残っており、「かわうそ」そのものが妖怪としてとらえられていた地方もあるようです。きっと当時は、南千住でもその「かわうそ」の伝承があったに違いありません。人に悪さをする「かわうそ」を、怖がりながら捕らえたのが「かわうそ狩り」だったのでしょうか。



### すみだ川妖怪絵巻 308 『かわうそ狩り』

協力:  
NPO法人  
千住すみだ川



# 1日税務署長

〇〇〇〇さん(3-2)が税の作文で最高賞となる**荒川税務署長賞**を受賞し、昨年12月25日(水)に、**荒川税務署の1日税務署長**を務めました。2学期の終業式を終えた後、荒川税務署を訪れた松野さんは、荒川税務署長から一日税務署長の委嘱状を交付され、税務署長の業務に必要な印鑑と名刺を贈られました。タスキをかけて署長室の椅子に座り、実際の業務を体験。職員の出勤状況表などの決裁や外部機関との電話対応などの署長業務を行いました。また、署内を巡回し、税務業務の仕事現場を視察したり、各部署の担当副所長と名刺交換をしました。1階の窓口前には、受賞作文が展示されており、手続きや相談に訪れた区民の皆さんがよく目を通して、税金の大切さを感じる機会となっていると説明を受けました。最後に集まった約30人の職員を前に、**受賞作文「税を学ぶ私達がいる理由」**を職員への訓示として朗読しました。

1日税務署長を体験した〇〇さんは「税の種類によって部署が分かれ、専門的な業務が行われているおかげで安心して暮らしていけることがわかった。税金が私たちが通っている学校をはじめ、身近なものから将来のためのものでさまざまなものに役立てられていることを知ってうれしかったです。将来の納税者の一人として、もっと税について知りたいと思います。」と感想を述べました。

税務署の仕事体験するたいへん貴重な機会となりました。



1日税務署長を務める〇〇〇〇さん



職員を前に、作文を訓示として朗読する〇〇〇〇さん

荒川  
税務署長賞

## 税を学ぶ私達がいる理由

3年2組 〇〇〇〇

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」教科書の裏面には、こんなことが書いてあります。小学生の弟の教科書にも書かれています。兄の高校の教科書には書かれていません。私はこの文を読んだときに気づきました。私が今、学校に通えているのも、勉強できているのも税のおかげだったのだと。

日本国憲法の第二十六条には「①すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。②すべての国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育はこれを無償とする。」とあります。日本では六歳から十五歳の九年間はすべての国民が必ず教育を受けなければならないと法律で定められています。しかし、世界に目を向けてみると、今の私達がどれだけ幸せであるかがよく分かります。世界には学校に行くことができない子供が一億三千万人以上います。学校に行けない理由はお金がないこと以外にも、先生がいないことや学校が通うには遠いこと。働いているから。教科書や学用品が足りないことなどがあります。また、アメリカでは、一人一冊の教科書を持つことはできず、使い回しているそうです。

もし、税金がなかったらと考えたことはありますか。学校に行くにも、整備されていない道を歩いて、年々ボロボロになっていく校舎で授業を受けることになります。授業代も百二十万円を越え、小中と合わせると九千万を越え、一億円近くになります。私は三人兄弟なのでそれぞれ九年間通った場合には三億近くになります。学校をきれいにするために生徒からお金を集めたとしたらもっと金額が増えると考えられます。私の母は公務員で税から給料をもらっている私の生活も厳しいものになるでしょう。

今、世間では消費税増税に対する反対の意見が多く上げられています。しかし、私はしっかり税を納められたらと思います。私が今までの九年間、学校に通えたことも好きなことをしていられたことも税を使い国が手助けをしてくれていたからです。私はこれから高校へと進学していきますが、義務教育中に見つけた好きなことを大切にしていけたらと思います。もっと税についてくわしく学び、日本に生きる者としてしっかり納税ができる人になりたいです。

# 薬物乱用防止教室

1月17日(金)の6校時のセーフティ教室では、南千住警察署からお2人に來校いただき、「**薬物乱用防止教室**」が開かれました。中学生には関係がないと思われがちですが、薬物乱用による中学生の犯罪は年々増加しています。今回は薬物の乱用が招く心身への害や恐怖、使用はもちろん、所持することも犯罪であることを理解するために、アニメとドラマでわかりやすく解説したビデオを鑑賞。その後少年係の警察官の方から、実際に起こった薬物乱用やオレオレ詐欺などの少年犯罪の例についてお話いただきました。少年犯罪では、軽い気持ちで誘いに乗り、罪を受けることになってしまったというケースが多く見られ、いろいろな誘惑を断るコツは、「**はっきり断る」「その場を離れる**」の2つと教えていただきました。先輩にタバコを勧められたときのロープレも行われ、〇〇〇くん(1-3)と〇〇〇〇くん(1-4)の2人がステージに上がり、先輩役の警察官の度々の誘いにも屈することなく懸命に断り続ける様子から実際のシチュエーションで、自分だったらどうするだろうと考える機会となりました。感想を求められ、2年生が語った「**断る勇気を持とう**」という言葉がたいへん印象的でした。



先輩にタバコを勧められたとき



どのように断る?

# 校内書き初め展・作品展示会

1月9日(木)から南千住二中では、「**校内書き初め展**」および「**作品展示会**」を行っています。書き初めはお正月の習わしとして毎年取り組んでおり、今年も1年間の抱負や目標が込められた、令和初の新年にふさわしい晴れやかな作品が揃いました。各クラスの国語係と有志たちによって学年のフロアや教室の壁面などに展示され、国語科の先生方の審査により、金賞、銀賞、銅賞、そして1年生には「もう少しです」という応援賞が決まりました。

「作品展示会」では、美術科の授業で、1年生が漢字一文字の意味を絵で表した「**絵文字**」、3年生が、好きな国をイメージして描いた「**観光ポスター**」、そして家庭科の授業で、2年生がお正月料理の由来やひとつひとつの料理に込められた意味などをイラストとともにまとめた「**おせち料理**」が1階のホールを利用して展示されています。書き初め展・作品展示会は1月31日(金)までですが、1階ホールでは今後も展示を行います。公開授業日などの機会に、保護者、地域の皆さまもぜひご参観ください。



3年書き初め



3年観光ポスター



2年おせち料理



1年絵文字

# 地域の皆さまからの年賀状



近隣の皆さまからレスキュー部に沢山の年賀状が届きました。干支のねずみにちなんだものやレスキュー部員に宛てたメッセージが書かれたものなど、心遣いにあふれたものばかり。「**毎月訪ねてくれてありがとう**」など感謝の言葉も添えられており、絆ネットワークの活動が近隣の皆さまとの絆を育み、万一のときの心の支えとなっていることが伺え、これからの活動の大きな励みとなりました。心温まる年賀状を本当にありがとうございました。